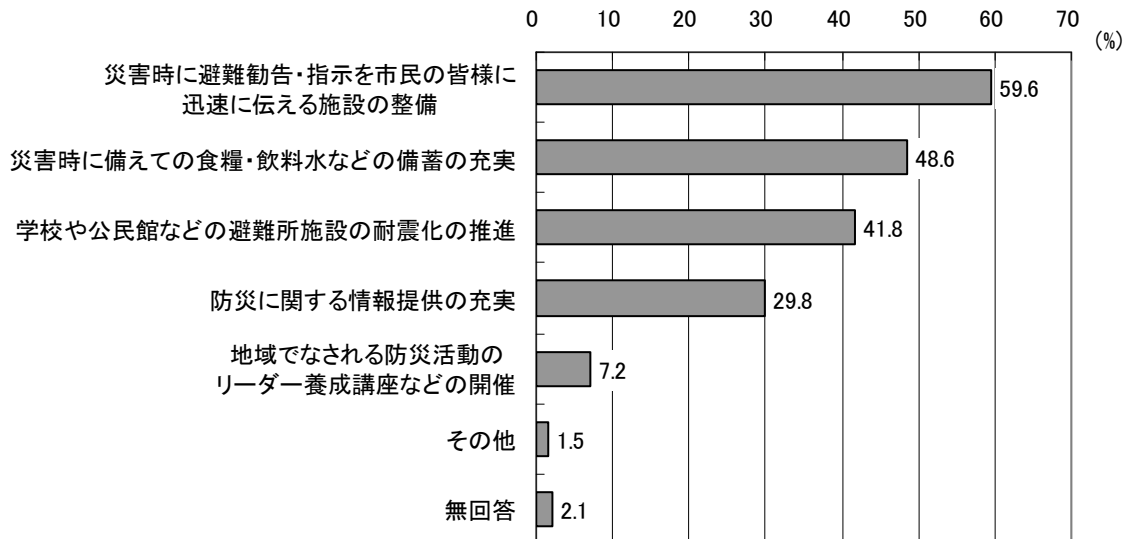


4. 防災対策について

4-1 市が防災対策として力を入れるべきこと

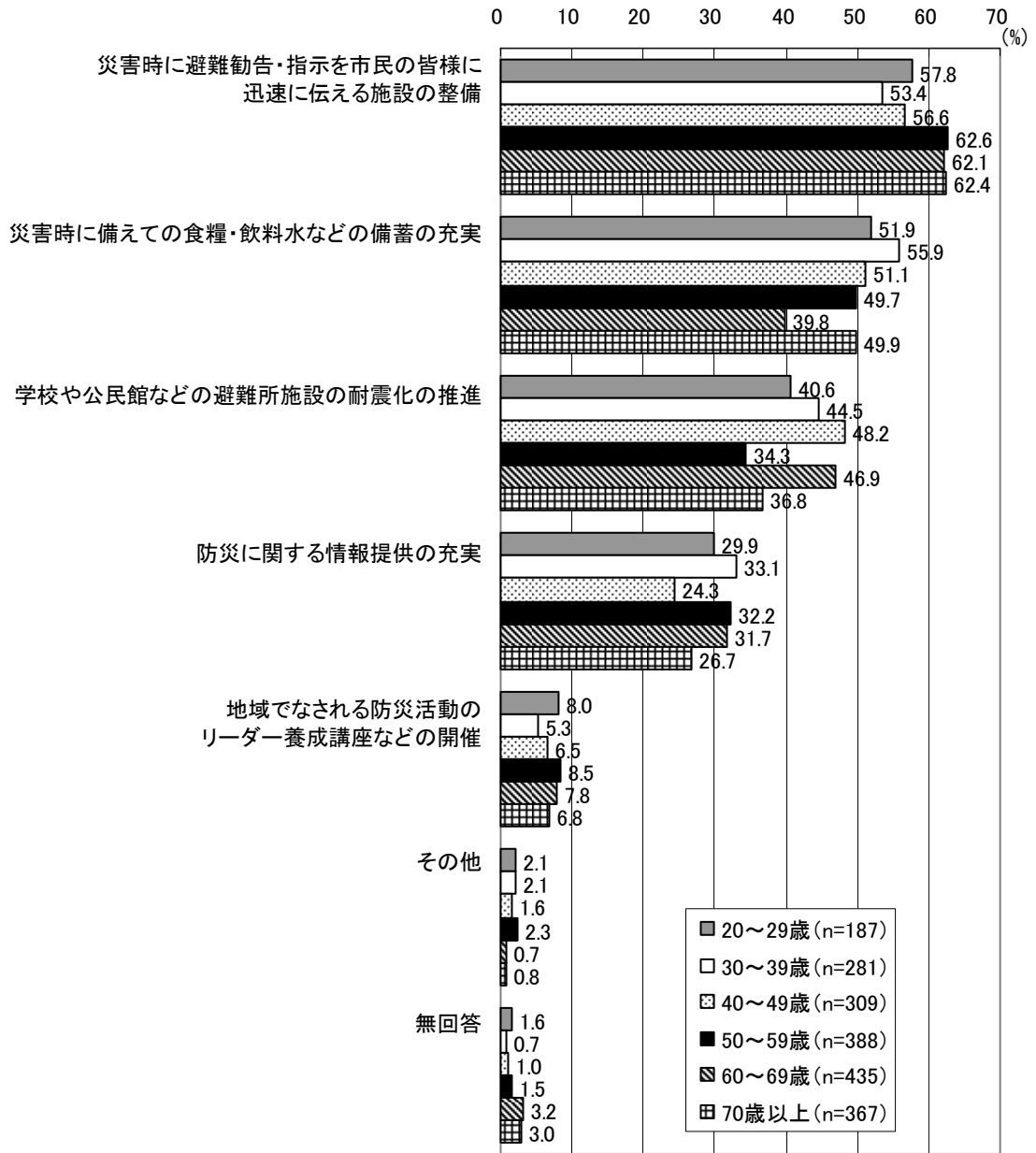
問12 防災対策としては、全ての対策が重要ですが、特に市が力を入れるべきと思われる取り組みはどの項目だと思われますか。(あてはまるもの2つ以内に○)

図4-1 (市が防災対策として力を入れるべきこと)【n=1,980】



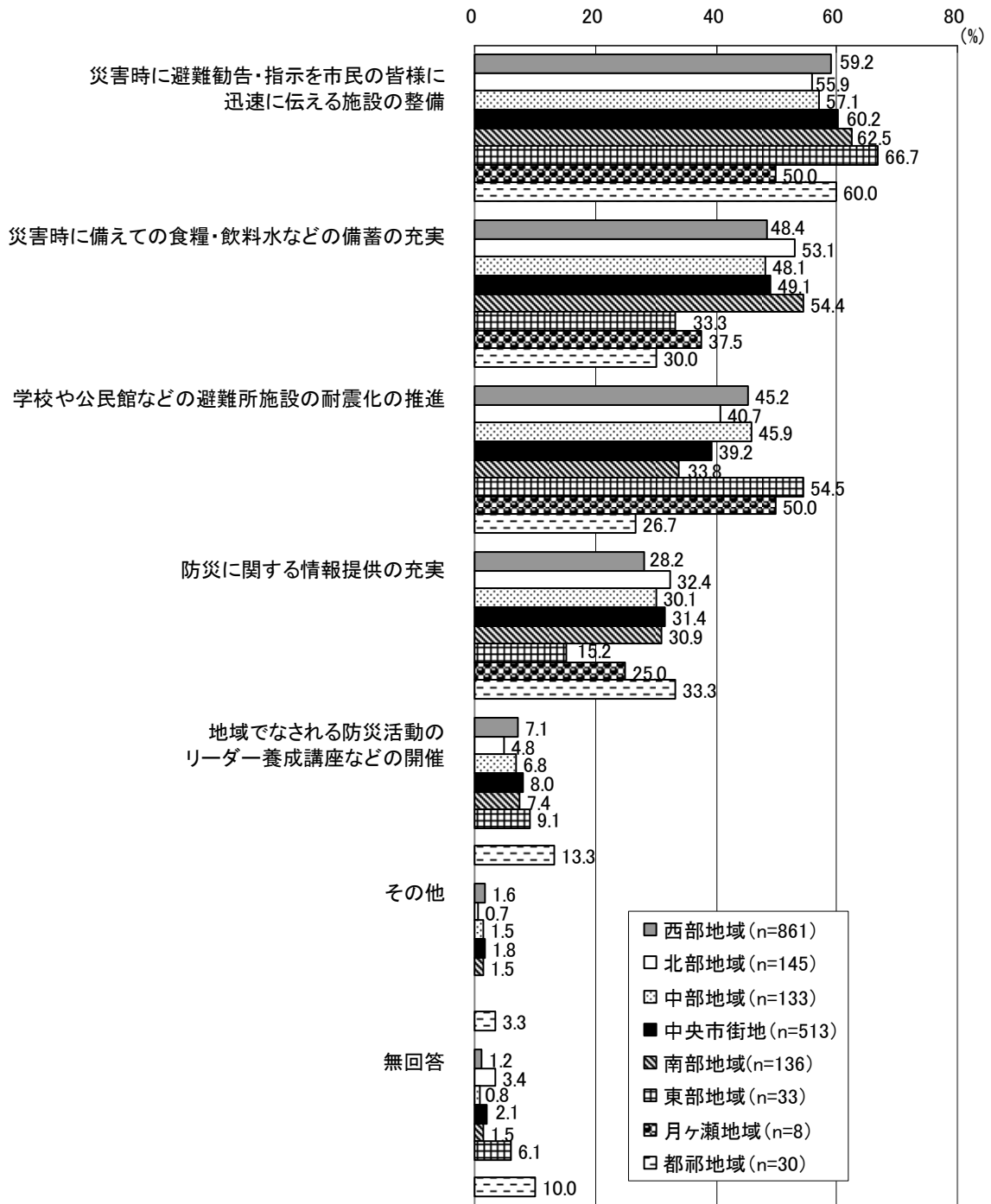
市が防災対策として力を入れるべきことは、「災害時に避難勧告・指示を市民の皆様迅速に伝える施設の整備」が 59.6%で最も高く、次いで「災害時に備えての食糧・飲料水などの備蓄の充実」(48.6%)、「学校や公民館などの避難所施設の耐震化の推進」(41.8%)となっている。(図4-1)

図 4-1-1 (年齢別 市が防災対策として力を入れるべきこと)



年齢別にみると、50歳代以上は、「災害時に避難勧告・指示を市民の皆様迅速に伝える施設の整備」が高くなっており6割を超えている。一方、40歳代以下は「災害時に備えての食糧・飲料水などの備蓄の充実」が5割を超えており、30～39歳が55.9%で最も高い。(図 4-1-1)

図 4-1-2 (地域別 市が防災対策として力を入れるべきこと)

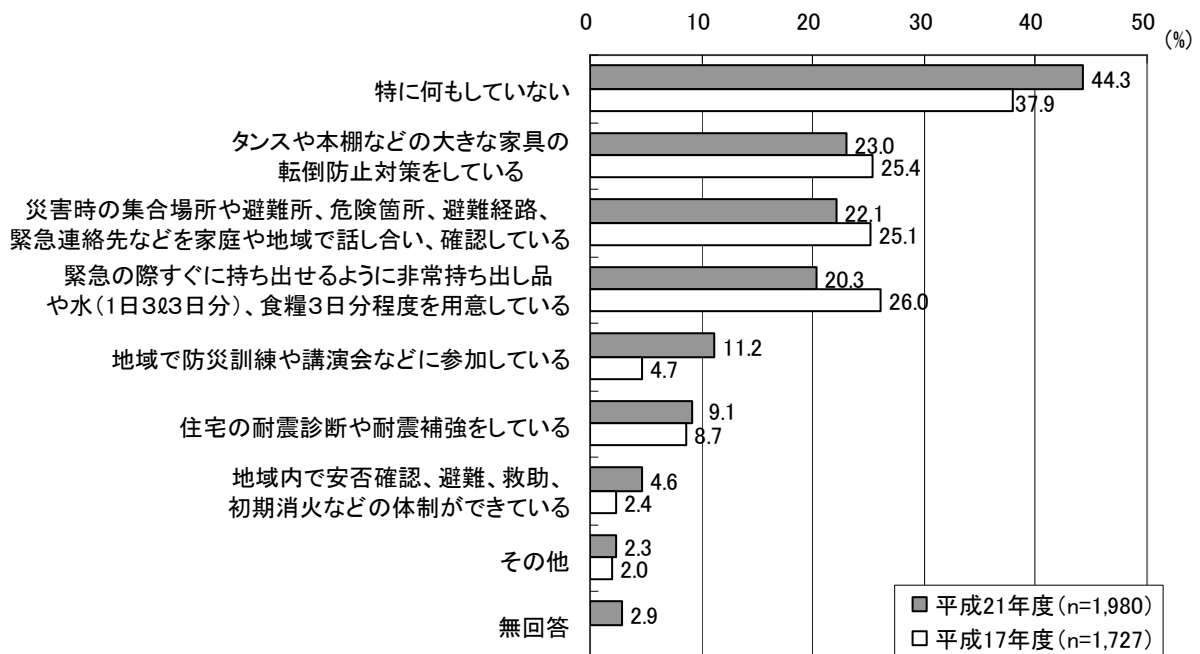


地域別にみると、東部地域では「学校や公民館などの避難所施設の耐震化の推進」が54.5%と他の地域よりも高くなっている。北部地域と南部地域では、「災害時に備えての食糧・飲料水などの備蓄の充実」が他の地域よりやや高く5割を超えている。(図 4-1-2)

4-2 家庭や地域で行っている防災対策

問13 防災対策として、ご家庭や地域で行っておられる取り組みは、ありますか。
(あてはまるものすべてに○)

図4-2 (家庭や地域で行っている防災対策)【n=1,980】

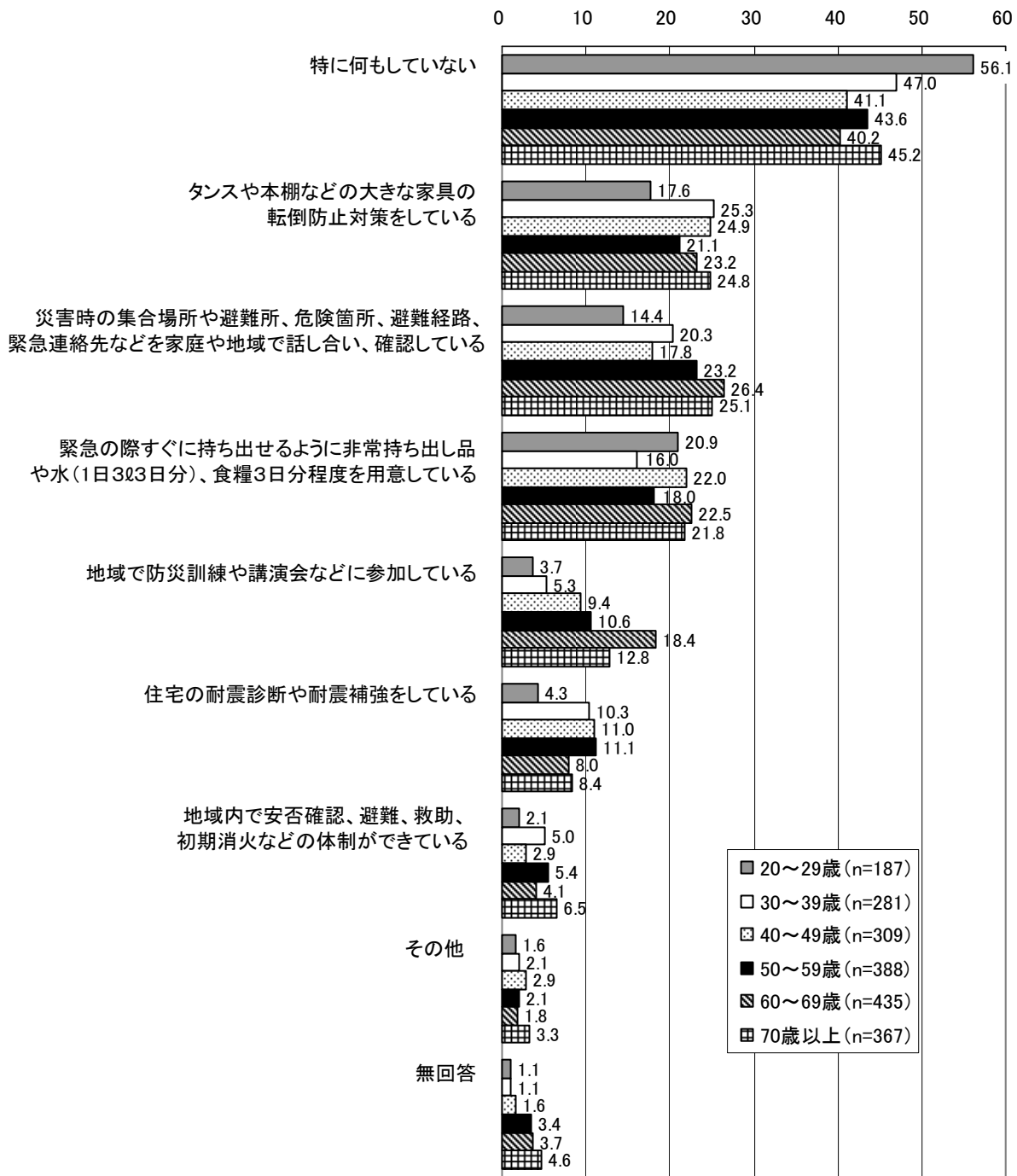


家庭や地域で行っている防災対策は、「タンスや本棚などの大きな家具の転倒防止対策をしている」(23.0%)、「災害時の集合場所や避難所、危険箇所、避難経路、緊急連絡先などを家庭や地域で話し合い、確認している」(22.1%)、「緊急の際すぐに持ち出せるように非常持ち出し品や水(1日3ℓ3日分)、食糧3日分程度を用意している」(20.3%)がほぼ同率で2割程度である。一方、「特に何もしていない」は44.3%と4割を超えている。

平成17年度の「奈良市民意識調査」と比較すると、「タンスや本棚などの大きな家具の転倒防止対策をしている」、「災害時の集合場所や避難所、危険箇所、避難経路、緊急連絡先などを家庭や地域で話し合い、確認している」、「緊急の際すぐに持ち出せるように非常持ち出し品や水(1日3ℓ3日分)、食糧3日分程度を用意している」は前回調査を下回っており、「特に何もしていない」は前回調査を6.4ポイント上回っている。「地域で防災訓練や講演会などに参加している」は前回調査を6.5ポイント上回っている。(図4-2)

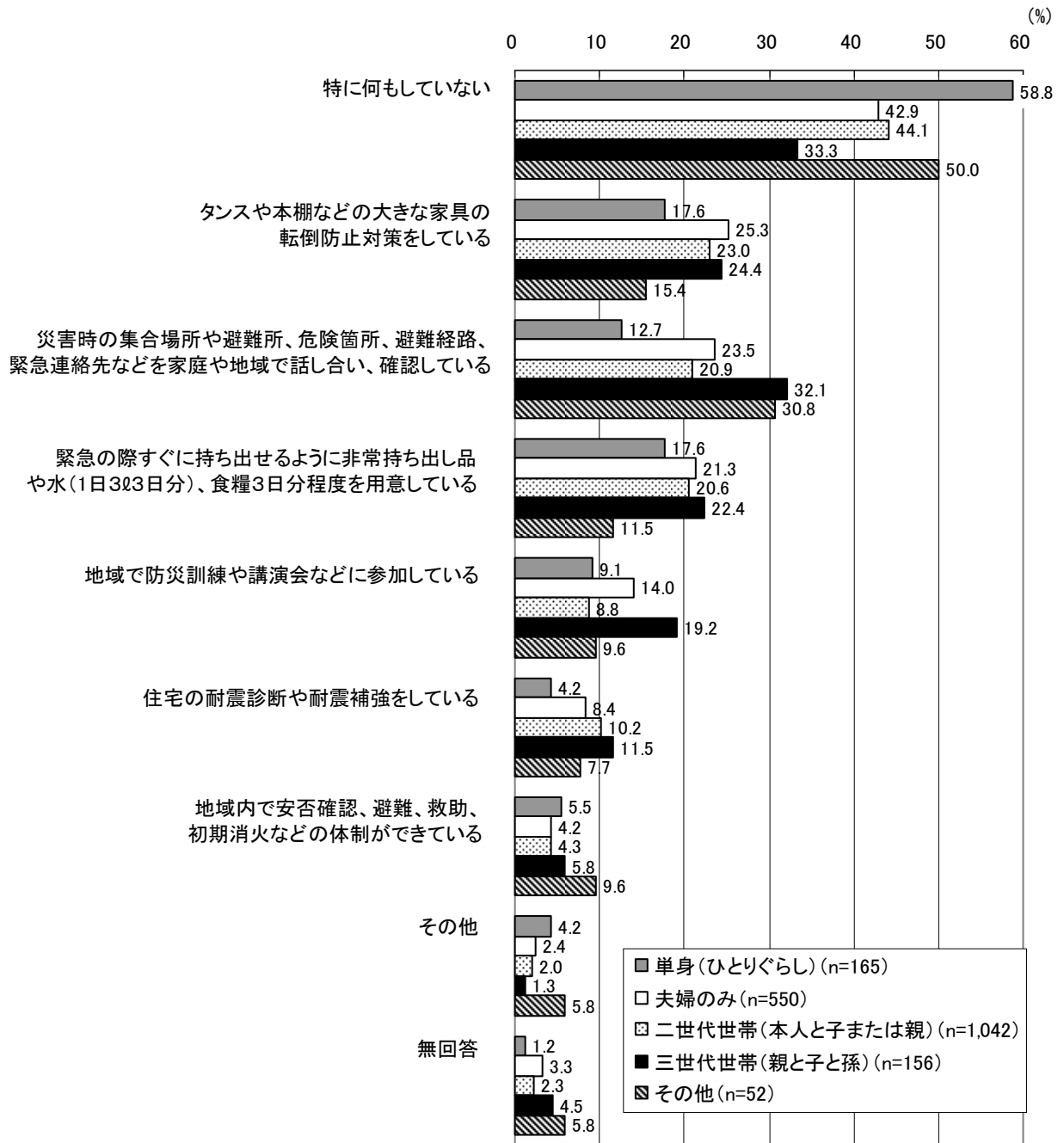
図 4-2-1 (年齢別 家庭や地域で行っている防災対策)

(%)



年齢別にみると、20歳代は「特に何もしていない」が56.1%と半数を超えており、他の年代と比べて防災対策の取り組みは大半の項目で低くなっている。(表 4-2-1)

図 4-2-2 (家族構成別 家庭や地域で行っている防災対策)



家族構成別にみると、三世帯世帯は「災害時の集合場所や避難所、危険箇所、避難経路、緊急連絡先などを家庭や地域で話し合い、確認している」が32.1%と高く、「特に何もしていない」が33.3%と低い。逆に、単身世帯では「特に何もしていない」が58.8%で6割近くにのぼる。(図 4-2-2)